

アムステルダム日本人学校の特色と課題

前アムステルダム日本人学校校長

茨城県つくば市立竹園西小学校拠点校指導員 向原 正博

キーワード：コロナ禍、学校経営、連携、オンライン授業、オランダの教育

赴任校の概要（2021年4月15日現在）

学校名・日本語：アムステルダム日本人学校

学校名・現地表記：The Japanese school of Amsterdam

URL：<https://www.jsa.nl/>

1. はじめに

(1) アムステルダム日本人学校の概要

① アムステルダム日本人学校について

アムステルダム日本人学校は、オランダの首都であるアムステルダム市の南西部に位置する。2019年に創立40周年を迎えた歴史のある日本人学校である。1900年代は300名超の児童生徒数であったが、その後次第に減少し、現在は170名から180名である。しかし、2020年度開始時期にCOVID-19が流行したため、急遽、多くの企業の児童生徒が帰国し、現在は130名前後となっている。

アムステルダム日本人学校がある地域は、道路を隔てた向かい側に教員養成学校、その隣に、イスラム系の小中学校、その隣にインターナショナルスクールが建っている文教地区である。

② 教育課程の特色

日本人学校は、基本的には文部科学省の指針に従って教育課程を編成している。海外において、日本と同じかそれ以上の教育を提供するため、日本と同じ教育課程を実施している。

しかし、在籍している児童生徒は、何年も海外で生活していて、英語は流暢に話すことができる者も多い。保護者も今まで以上に英会話の力を伸ばしてほしいという要望が多い。そこで、在外教育施設ということを考慮し、総合的な学習の時間や生活科の時間の一部を活用して、英会話とオランダ語の学習を位置づけた。オランダ語は、小学部は各学年1時間実施している。中学部では実施していない。英会話は、各学年をレベル毎に3分割し、各学年2時間程度実施している。

③ チューリップ幼稚園や補習授業校との関係

アムステルダム市の隣町アムステルフェーン市に日本人が開設したチューリップ幼稚園がある。ここの卒業生の多くが、日本人学校に入学してくることから、園長先生と連携を取り、年間計画や様々な行事計画を交換し合っている。また、本校は、土地はアムステルダム市からほぼ無償で提供されて、建物は在オランダ日本商工会議所が資金を出して設立されたものである。そこで、土曜日は補習校が使用し、それ以外は日本人学校が使用している。設立母体が同じなので、無償で校舎は貸与している。

2. オランダの教育制度

(1) 憲法に保障された3つの自由

オランダの教育制度は、オランダの憲法23条の3つの自由に基づいている。3つの自由とは、「設立の自由・理念の自由・教育方法の自由」である。

設立の自由…200名の児童を集められれば、自分たちで学校を作ってもよい。

理念の自由…宗教色を出しても他のことで特色を出してもよい。

教育方法の自由…教育内容、教材の裁量権が自由。

上記の3つの自由を元に、公立学校でも様々な教育方法を取り入れて、学校運営が行われている。そのため、アムステルダム市だけでも、モンテッソーリが24校、シュタイナーが10校、ダルトン・プランが16校、イエナ・プランが4校、オランダの昔からの教育方法178校と、それ以外の教育方法をとっているところが5種類ある。日本で有名なイエナプランの学校は、非常に少ない。しかし、様々な学校がイエナプラン的な学習方法を取り入れている。

(2) 学校制度

オランダでは、4歳に成ったら小学校に登校してもよいことになっている。5歳からは必ず小学校に行かなければならない。そのため、日本と違い一斉に入学してくるということはないので、入学式といったものがない。12歳になるとCITO（テスト開発中央機関）という国で行う共通テストがあり、その成績により、自分の進路先が振り分けられる。

大学進学を前提としたVWO、職業訓練を目標としたVMBO、その中間に位置するHAVOへと進学する（図1参照）。それぞれ固定化されたものではなく、各ルートを変更することもできる。

学校を視察して驚いたのは、各教室に大型電子黒板が設置されて、教師はそれを使って授業を行っていることと、その予算がすべて国と市がもってくれていることであった。国や市の予算的バックアップが素晴らしいことに驚いた。

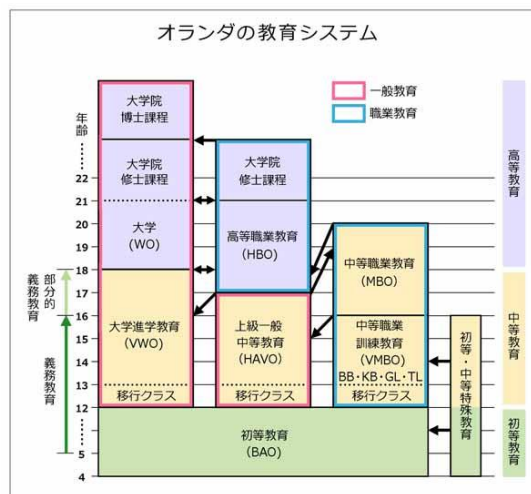


図1 オランダの教育システム
(せかいじゅうライフより)

3. 学校経営の課題

(1) コロナ禍での学校開始のために

① 学校再開の準備

2019年度が終了し春休みの間に、オランダのコロナ感染状況が悪化し、オランダ政府から学校を3月16日から閉鎖するようとの命令が出された。幸い、3月14日卒業式を実施していたので、2019年度は無事に終わることができた。そこで、いつから学校を開けられるかは全く見通しが付いていなかったため、職員と相談し、現地の学校と同様に本校もオンライン授業を行うことにした。そこで、オンライン授業を始めるためにどんなことが必要かを検討し、次のことを確認していった。

- ・児童生徒に1台ずつタブレットやPCがあるか。
- ・十分なネット環境があるか。
- ・低学年は、対応出来るか。
- ・新年度の教科書はどのように渡すか。
- ・会議システムは何を使用するか。

上記のことを、1つ1つ検討しながら、4月の再開に向けて進んでいった。

② オンライン授業実施に向けて

ア. 児童生徒に1台ずつのタブレットやPCがあるか。

この件に関して、問い合わせをするためにすべての保護者のメールアドレスを収集し、クラス毎のメーリングリストを作成した。保護者に確認したところ、ごく僅かではあったがスマホを入れれば対応可能ということが分かった。

イ. 十分なネット環境があるか。

学校から日時を決めて、接続確認を行った。実施したところ、家庭の接続環境がよいことが分かった。学校では、ルータを交換し、ネット環境の改善を行った。

ウ. 低学年は対応出来るか。

幸いなことに、在外教育施設は、ほとんど駐在員の家庭である。そのため、母親は就労禁止となっており、低学年は母親が付いていてくれた。また、駐在員の多くは自宅勤務となり、そのため、途中で接続が切れたり、PCがフリーズしたりしても保護者が対応してもらうことができた。

エ. 新しい教科書はどのように配布するか。

教科書配布についても、頭を悩ませた。児童生徒を登校させると、コロナの感染の心配がある。そこで、校庭を使い、学年ごとに時間指定して、車で取りに来てもらった。保護者は、車から降りることなく、ドライブスルー形式で学年と氏名を伝え、教科書を受け取った。

オ. 会議システムは何を使うか。

授業でどこの会議システムを使うか検討するときに、Teams (Microsoft)、Zoom (Zoom Video Communications) のどちらを使おうか話し合い、使いやすいZoomにすることにした。Zoomについては、セキュリティ面の心配があり保護者からも連絡もらったが、大学の先生等とも相談しながら、Zoomを使用することにした。

(2) オンライン授業の実施

オランダ政府の発表を元に、理事会やPTAと話し合い、4月21日(火)から授業を開始することにした。教職員には、初めてのことで、うまくいかなくてもゆっくりと進めていけばよいということを伝えた。失敗してもよいという安心感を持たせることで、取り組みやすくしていった。始めは手探りで進めていったが、次第に、分かったことはその日の放課後の終会で、分かった職員が、終会中に発表して、他の職員に教えることで全体のレベルアップが図れた。所謂、ボトムアップ研修を実施することができた。



図2 オンライン授業の様子

(3) アムステルダム日本語補習授業校及び幼稚園との連携

チューリップ幼稚園からもリモートで保育を行うので、日本人学校との時間調整をしたいという申し出があり、2時間目終了後、保育の時間を30分間設け、その後、3時間目を行うようにした。この30分間で、チューリップ幼稚園は、保育遊びをさせたり、母親の相談を受けたりしていた。この時間は、本校職員にとっては、ちょうどよいブレイクタイムになった。時間割は、1日に5時間授業を設定し、授業が遅れないようにしていった。

また、補習授業校とは、文書のやり取りもしており、本校が保護者に出した教科書配布用の文書やコロナに関する文書のひな形等を渡し、参考にしてもらった。また、今後どうするかを、互いの理事長も交えて意見交換をした。

4. 校内研修の工夫

(1) 校内研修の工夫

アムステルダム日本人学校では、全員が1研究授業を公開することになっている。時間割の都合上、授業を見に行けない教師も出てくるが、そこは声を掛け合って、短時間でも参観することにした。参観したら、全員が参観カードに授業の感想を書き、話し合いをしながら手渡した。また、オンライン授業の期間は、オンライン授業のやり方を見ることが出来たので、他の職員にも非常に参考になった。一昨年度は道徳の研修、昨年度は、オンラインを活用した学び合いの研修を進めていった。昨年度は、日本に一時帰国して、その後、オランダに帰国することが企業で認められていない児童生徒も多数在籍していたので、日本からオンラインで授業に参加している者もいた。それらの状況で、どのように授業を進めることが効果的かということも研修を進めていった。

(2) 日本語補習授業校との研修

補習授業校の先生は、日本で教員の経験のない方が多い。週1回しか授業を行わない補習授業校において、日本人学校の授業のやり方をそのまま取り入れて実践することは難しい。年間40数回の授業日の中で、国語、算数、社会等の教科書を終わらせなければならない。その中でも補習授業校の先生は、日本人学校の経験豊富な教職員に指導方法や様々なことを教えてもらい、よりよい授業を実施したいと願っている。そこで、アムステルダム日本人学校とアムステルダム日本語補習授業校とは、2年間で1セットに校内研修を行った。1年目は、本校職員が授業を公開し、補習授業校の教職員が授業参観を行い、補習授業校の教職員に授業の意図や補習授業校の教職員の疑問に答える時間をとった。2年目は、補習授業校の教職員の授業を参観し、日本人学校の教職員が指導助言をするようにした。2020年の研修では、お互いに学校を行き来できる状態ではなかったので、事前に質問を受けて、オンラインで研修会を行った。教職員は、コロナ禍の中でもできることを増やしていこうということで、工夫して研修会を行うことができた。

5. 学校理事会との連携

アムステルダム日本人学校は、校内は学校長が経営をするが、様々なことを学校理事会に相談して進めている。理事には、各企業の代表と在外公館の代表の方に就任してもらっている。そのおかげで、中学生の職場体験などは、各企業の方に快く協力してもらっている。

在外教育施設では、保護者の児童生徒に対する期待も高いので、同時に学校に対する期待も高い。その中で、学校でできないことなどの要望に対しては、理事会が前面に出て対応していただいた。そのため、学校での生徒指導事項やコロナの感染に関する事、学校から出す文書については、度々、理事会に相談しながら作成していた。

6. まとめ

アムステルダム日本人学校に3年間勤務して、この学校で退職した自分にとって、このアムステルダム日本人学校での勤務は、ひときわ思い出深いものになった。全国から集まった意欲に溢れる教職員、愛情をたっぷりと受けた児童生徒、自分の仕事に誇りを持っている現地採用教職員、非常に協力的な保護者。自分は、この3年間で多くのことを学ぶことができた。特に、コロナ禍だからできないと諦めるのではなく、できることを模索していく姿が非常に印象に残った。With コロナの時代に必要な気持ちの持ち方や考えを、児童生徒たちから教えられた3年間であった。日本に帰国してから、若い教職員に自分の経験を伝えると同時に、オランダ人の現地職員をはじめ、近所のオランダ人、オランダでの生活を助けてくれた人々が住むオランダがますます発展していくことを願う。